

女帝の日本史

日本の天皇で女性が登極（登場）されたケースは少ないのですが、あります。今回はこの女性の天皇＝女帝の即位（就任）のいきさつなどを語りたいと思います。

天皇の代は神武天皇から今上天皇（平成天皇）まで125代と数えるのが一般的です。

神武天皇やそれ以後の十数代の神代に準ずる時代は実在の仁かどうかはっきりしないのですが、そうゆうことにしておきましょう。

この内女帝は10代、8人（同じ人が二回即位＝重祚）の方がおられます。

「天皇」と呼称が使用され始めたのが7世紀後半の天武天皇の時代で、それ以前は「大王（おおきみ）」、「すめら」、「すめらのみこと」等と呼ばれていました。

尊称として「みかど」とも呼ばれ、帝の漢字をあてはめました。

女帝の名称は10世紀の後半には使われてはいましたが、一般的には大后天皇、中宮天皇とか呼ばれていました。

ここでは女帝と呼ぶことに致します。

さて女帝が最初の登場されますのが、推古天皇です。西暦592年から36年間の在任です。

古代とは言え、これは確かです。時は飛鳥時代です。以後女帝は皇極天皇、斉明（さいめい）天皇（皇極が重祚（2回目）、持統天皇、元明（げんめい）天皇、元正（げんしょう）天皇、孝謙天皇、称徳天皇（孝謙が重祚（2回目）と続き称徳が770年亡くなって、古代の女帝時代は終わります。

この飛鳥時代から奈良時代にかけての178年間の内、女帝は8代（6人）延べ在任期間97年間、男性天皇は11代（11人）で延べ在任期間81年間です。

女帝の方の延べ在任期間の方が長いのです。推古女帝はお一人で36年間の在任、政権です。

これは女帝が男性天皇へのただの中継ぎの天皇とは言えません。

しかし称徳で終わった女帝はその後平安時代、鎌倉時代、室町時代、戦国時代には現れません。江戸時代にお二人の女帝が即位されます。

それでも男子による皇位継承が原則であったことは間違いないでしょう。

それでは何故女帝の10代、8人の方の即位があったのかを古代をについて一人一人その事情を見てみることにします。

天皇には即位以前の名前があるのですが、ややこしいので天皇名だけを使います。

添付別紙「古代女帝略系図」を参照ください。

○推古天皇（すいこ、在世554～628年 在位592～628 36年）
父は仏教の輸入で有名な欽明（きんめい）天皇。欽明の嫡男敏達（びたつ）天皇の皇后です。

異母ですが兄と妹の結婚です。この時代は許されていました。

敏達の病没の後、弟の用明天皇が即位するも又病没し、更にその後に即位した弟の崇峻（すしゅん）天皇が蘇我馬子に殺されます。

この崇峻天皇謀殺は即位前の推古も聖徳太子も絡んでいるとの説があります。その後に初めての女帝として即位します。蘇我氏（馬子・蝦夷）と聖徳太子（甥）との協同政権と言えます。

崇峻天皇在世期間の不安定な政情の中で、三者協議で推古が即位。推古は蘇我氏と聖徳太子をうまく使い長期政権でした。

決して次代の舒明（じょめい）天皇の中継ぎでなく、政情の安定のために彼女の役割は大事でした。

○皇極天皇（こうぎょく 在世594～661年 在位642～645 3年）
推古女帝の甥の娘で、前の天皇である舒明天皇の皇后。中大兄皇子（なかのおおえのおうじ）後の天智天皇）の母です。

舒明没後、候補者が多く天皇がなかなか決まらない政情不安定の中、関係者で皇極を推戴。

政情は混沌とする中で、中大兄皇子が実力者蘇我入鹿を暗殺。蘇我宗家は滅亡します。

皇極と息子の中大兄皇子は相談して、皇極の弟の孝徳に譲位するも孝徳天皇は9年後に病没します。

○斉明天皇（さいめい、 皇極が二度目の即位 在位655～661年 6年）
次期天皇候補に中大兄皇子と共に孝徳の子の有馬王子が候補に挙がったので、

政情安定化のために再度皇極が又即位（二度目）することになります。
皇極・斉明時代は蘇我宗家が滅亡し、中大兄皇子と中臣鎌足が政権の中核とりますが、中大兄皇子は尚反対派にたいして慎重で、母親の斉明を立て、自分は天皇になりません。その後、斉明女帝・中大兄皇子の親子は安定政権となりました。斉明天皇は6年後に亡くなりますが、その後はスムーズに中大兄皇子に継承されます。天智天皇の即位です。
斉明女帝は他に天皇継承候補がある中で、我が子に天皇位を継承させることが出来ました。天智は母親のおかげで天皇になれました。

*この時代天皇の継承は天皇の嫡男が天皇になるとは限りません。天皇の兄弟が継承したり、その後は又戻って嫡男の子になったり、兄弟の子になりし継承順序があいまいで、そのため継承で皇族間と家臣間、その相互間でもめ、殺し合いになることもあります。

○持統天皇（じとう 在世645～702年 在位686～697年 11年）
天智の娘で叔父（天智の弟）である天武天皇の皇后。

天智天皇の後は息子の大海人皇子（後の弘文天皇）と弟の大海人皇子（おおあまのおうじ、後の天武天皇）が継承争いの戦争（壬申の乱）となり、大海人皇子が勝って天武天皇となります。（弘文天皇は自害）
そして天武天皇が亡くなった後、天武の多くの子が継承候補となり、収まりません。

そこで天武の実力者皇后の持統が天武の遺詔（遺言）だとして女帝になりました。遺勅が本当かどうか分かりません。

持統天皇は自分の後に天武と自分の間の子の草壁皇子に継がせるべく画策し、成功しかかったところで、草壁皇子が亡くなってしまいます。

そこで持統は草壁の子の文武（もんむ）に自分の後を継承させるべく更なる画策をし、ついに文武の成長を待って天皇を譲位（697年）します。そして持統は亡くなります。（702年）

○元明天皇（げんめい 在世661～721年 在位707～715年 8年）
ところが文武天皇が25歳で亡くなってしまいます。文武には8歳の男の子で後の聖武（しょうむ）がいますが、成人していませんので天皇にはなれません。平安時代以降は幼くとも天皇に即位し、摂政や上皇（院）が後見しますが、この頃は成人（15歳位で元服）していないと天皇位につけません。
天皇候補は何人もいます。後継天皇でもめます。
そこに文武天皇の父親である草壁皇子（689年没）の妃であった元明が推戴

されて天皇に即位します。皇后でない人が天皇になったのは初めてです。女帝5代目（4人目）です。

元明女帝は持統女帝の妹でもあります。

彼女は自分の孫の聖武の天皇就任に向け活動します。

聖武には長屋王（天武の孫）等ライバルがいます。

○元正天皇（げんしょう 在世680～748年 在位715～724年 9年）

元明天皇は8年後に自分は天皇を下りて娘の元正を天皇に立てます。文武（もんむ）天皇の妹で、聖武（しょうむ）の叔母さんです。

36歳独身です。不婚の女性が初めて天皇になりました。女帝6代目（5人目）

聖武はその時16歳で天皇になれる年になっていましたが、未だ対立候補がいたのです（長屋王外）。

元明と元正はしっかり政権の足場を確保してから聖武への譲位を考えたのでしょう。

持統、元明、元正の女帝は天武の血筋と共に自分たちの血筋への天皇位の継承を図ったものと考えられます。

○孝謙天皇（こうけん 在世718～770年 在位749～758年 9年）

元正天皇は無事聖武天皇に譲位しました。（724年）

ところが聖武天皇の皇子が若死にして息子を皇太子に立てられません。そこで先ず娘の孝謙をつなぎとして天皇にしておき、追って次の天皇を決めることにしました。

孝謙は、元正女帝と同じく未婚の女帝です。

聖武が太上天皇として権力は維持します。

聖武は孝謙女帝の後の天皇（皇太子）を決めます。天武天皇の孫の道祖王（ふなどおう）です。天武天皇系ではありますが、持統、元明、元正、の女帝の血筋はなくなります。聖武には息子がいないのでやむを得ないと考えたのでしょう。

孝謙を結婚させて子に継承させることは考えられていなかったのです。

ところが聖武太上天皇が亡くなると、孝謙は藤原仲麻呂と語らって道祖王（ふなどおう）を皇太子から外し（廢太子）て、同じく天武天皇の孫（じゅんにん）天皇の即位を決めます。（758年）

聖武の重しが無くなり天皇の権力を独り占めした最初の行動です。

○称徳天皇（しょうとく 孝謙の二度目 在位 764～770年 6年）
ところが孝謙太上天皇は淳任天皇は仲たがいします。道鏡への孝謙の肩入れに淳任が注文をつけたのです。孝謙と淳任との権力争いでしょう。孝謙と藤原仲麻呂は淳任から天皇位を奪います。（廢帝）その後孝謙は仲麻呂とも仲たがいし、仲麻呂を倒します。孝謙は道鏡を法皇として首班とし、更に道鏡を天皇にすると行ったところで病没します。（770年）

ここで古代の女帝史は終わります。

称徳女帝の亡き後は藤原氏等が相談して天智天皇の孫の光仁天皇（こうにん）を推戴します。

称徳が天皇家と血筋として何も関係ない道鏡を天皇にするとの発言には当時の関係者は驚嘆したでしょう。

古代の女帝の登場は単に男子天皇への単なる中継ぎでなく、天皇継承問題等で政情不穏の中で、自己の政権を安定確保して次世代に継承しました。

称徳女帝の亡き後、平安時代以後江戸時代まで女帝は登場しません。

古代の天皇は日本国の政権を持った人ですが、江戸時代の天皇には政治的な権限はほとんどありません。

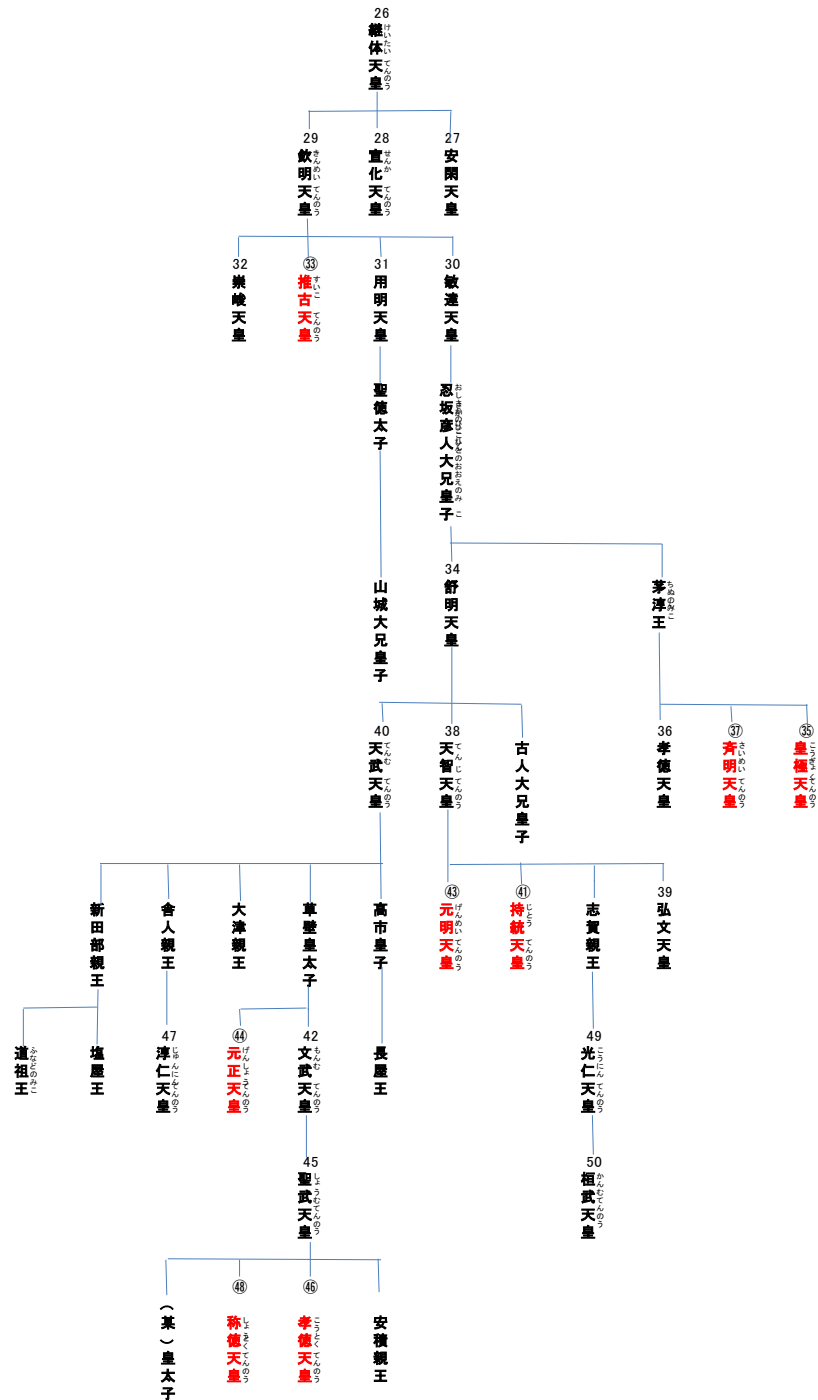
江戸時代初めの明正女帝は父帝の突如の譲位のため、又中頃の後桜町女帝も次の男子天皇が一才とあまりにも幼少のためで単なる中継ぎと考えて良いでしょう。

以上

2019年1月8日

梅 一声

古代女帝略系図



- 推古天皇は初めての女帝で亡き敏達天皇の皇后
- 皇極。齊明天皇は同じ人で、亡き舒明天皇の皇后
- 持統天皇は亡き天武天皇の皇后
- 元明天皇は亡き草壁皇太子の妃、皇后でない女性で天皇即位は初めて
- 元正天皇は結婚経験のない初めての天皇で、讓位(退任)後も結婚せず
- 孝徳・称徳天皇同じ人で、在任中未婚で亡くなる。
亡くなった後は天智天皇系の光仁天皇が即位

* 番号は神武天皇を初代とする歴代天皇の即位の順番
* 丸印番号、赤字は女帝